

講義名	生活文化論			
担当教員	西牟田 真希			
開講期・曜日・時限	後期 金曜日 1時限	授業形態	講義	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考

主題と概要

本講義では、現代グローバル化社会において、日常生活をおくるさまざまな人々の文化のあり方を学ぶ、生活文化を理解する代表的な視点と、これまで焦点があてられていなかった生活文化に注目される現象や事例から、文化の多様な認識を解説することを旨とする。具体的には、まず「文化」に関するこれまでの研究動向を紹介し、それを通して社会や人びとの生活を理解するための基本的な立場や考え方を学んでいく。その上で、労働者や生活者の文化がどのように形成・保持されているかを見て分析する。さらに、これまでの視点をもとに自らの文化と異文化とのギャップを比較して、他の社会や生活者への影響を考察する。

到達目標

社会学における「文化」の概念について理解し、国家の枠を超えてグローバルな動きを見せる現代社会の文化の展開について、考察することができるようになる。さまざまな事例を通して、特に社会生活の身近な生活文化に対して、学問的アプローチができるようになる。

提出課題

単元ごとに授業課題（平常レポート）を実施する。授業課題の各要素を最後にまとめなおして期末レポートを提出する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

授業課題（平常レポート）は、実施前に方法やポイントを説明して、実施後に解説を行う。

評価の基準

授業の取り組み姿勢・授業課題（平常レポート）（40%）、期末レポート（60%）により、総合的に評価する。

履修にあたっての注意・助言他

文化に関する身近な社会問題に常に関心を持っておくこと。授業は講義形式にて行うが、授業内容に関連した自身の体験や意見・考察も課題などで積極的に求める。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

木村至聖・森久聡編『社会学で読み解く文化遺産 新しい研究の視点とフィールド』（新曜社、2020）
 その他の参考文献は、授業の進捗や必要に応じて、授業内で適宜紹介する。

授業計画

<対面・オンラインを並行開講する科目>

一時的に通学困難になった場合は、対面授業を授業を録画した動画配信により受講できる（オンデマンド授業へ移行はしない）。

1. イントロダクション
2. 身体と生活文化
3. 制度・言説・行為
4. 各自のテーマと仮説を決定しよう
5. グローバル化にみる生活文化
6. 文化帝國主義と文化論的転回
7. 労働/消費と生活文化 文化の享受と戦略
8. 各自のテーマの項目を比較・観察しよう
9. 階層と生活文化
10. 逸論・問題と生活文化
11. テキストと生活文化
12. 資料・文献を探して各自のテーマと比較しよう
13. 記憶と文化 文化の継承性
14. 文化の機能とアイデンティティ
15. まとめ（分析・考察）をしよう 生活文化になぜ相違がみられるか

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

単元1. 授業内容を参考にして、自分でテーマ設定を行う・・・自己学習（予習・復習（18時間）、課題（18時間）×4回）
 単元2. 各自のテーマの項目を比較・観察する・・・自己学習（予習・復習（18時間）、課題（18時間）×3回）
 単元3. テーマに関連する文献・資料を探して内容をまとめる・・・自己学習（予習・復習（18時間）、課題（18時間）×4回）
 単元4. 意見支持・立場の説明、分析・考察を行う・・・自己学習（予習・復習（18時間）、課題（18時間）×4回）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本学が目指す「豊かな社会の実現に貢献できる意欲と能力を持ったビジネスパーソン」育成のうち、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」の養成を目指すものである。

本講義は、現象や事象の問題点の発見、課題を設定する課題発見力（単元1）、条件・制約を考慮して、課題解決の道筋や段取りを具体化する構想力（単元2）、適切な手段を用いて収集・調査、整理する情報収集力（単元3）、収集した情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する情報分析力（単元4）である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

使用しない

実務経験の有無及び活用

無し

備考

授業の進行具合によって、前後のカリキュラムを流動的に変更する場合がある。

<対面・オンラインを並行開講する科目>

一時的に通学困難になった場合は、対面授業を授業を録画した動画配信により受講できる（オンデマンド授業へ移行はしない）。